

ご挨拶



独立行政法人環境再生保全機構
理事長 福井 光彦

平素は、環境行政及び地球環境基金事業にご協力を賜り、御礼申し上げます。

地球上では、二酸化炭素による温暖化、砂漠化や熱帯林の減少、生物多様性の損失など様々な環境問題が深刻化しています。

こうした中、2015年9月に、ニューヨークの国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、2030年をターゲットとした持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。SDGsは、気候変動、陸上生態系の保護、持続可能な消費と生産など17の地球規模の課題解決に向けた目標を掲げ、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指しています。我が国においても行政をはじめ、企業、NGO・NPOにおいてもSDGsに対応した様々な取り組みが始まっています。

また、2015年に気候変動枠組条約第21回締結国会議で採択された「パリ協定」は、2016年11月に発効し、歴史上初めて先進国と途上国の区別なく、温室効果ガス削減に向けて自国で目標を定め達成を目指すことになりました。我が国においても、2030年度には26%（2013年度比）、長期的には2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指しています。こうした大幅な排出削減は従来の取り組みの延長では実現が困難とされ、抜本的な排出削減を可能とする革新的技術の開発と目標達成に向けた国民の一層の協力が求められています。パリ協定の発効で、世界の社会経済活動は脱炭素社会に向けて大きく動き出したと言えるでしょう。

こうした「持続可能な開発の達成」や「気候変動への対応」を推進していく上で、「様々な主体の参加と連携」や「長期的視点」がますます大切となっており、とりわけユース世代の役割が重要となってきていることは言うまでもありません。

こうした状況をふまえ、一昨年度から環境省と独立行政法人環境再生保全機構において創設した「全国ユース環境ネットワーク促進事業」の一環として、環境省、独立行政法人環境再生保全機構及び国連大学サステナビリティ高等研究所の主催で全国ユース環境活動発表大会を開催しています。全国から選りすぐりの環境活動を実践する高校生が、日頃の活動内容を披露しあい、同世代が行う活動から多くの気づき、学びを得ることを期待するものです。

第3回目となる今回からは、SDGsの17の目標のうち環境問題に関係する12の目標のいずれかに当てはまる活動からご応募いただくことになりました。今、高校生であるみなさんは、2030年には社会の第一線で活躍する世代になっています。ユース自らの行動が地球規模の目標達成と密接に結びついていることをより実感いただけるものと考えております。

皆様方におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、積極的な参加をいただきますよう、お願い申し上げます。